

講義名	基礎知識（自然科学）		
担当教員	南木 陸彦		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 1時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
備考			

**主題と概要**

現代社会の経済・産業活動は高度な科学・技術の成果に支えられており、自然科学の諸知識を不可欠なものとしている。現代人は、あらゆる分野で常識化した自然科学の知識と考え方を身につける必要に迫られている。高校でもこのことは重視され自然科学の基礎的知識を理科教育の諸科目（物理・化学・生物・地学等）が受け持っている。しかし、高等教育の学習分野とその量は膨大なものとなり、とくに人文・社会科学への大学進学者は限りのない自然科学の基礎的知識が十分に習得出来ていないのが実情である。また、一方では、高校での学習内容は、「出題できること」を中心に編成されており、原の枠線や、クイズ的な側面がある。特に「物理」や「化学」ではこの傾向が強く、高校の諸科目が現在の自然科学の概要を網羅しているとは言いがたい。

この科目の目的は、上述の高校教育のかたよりをある程度は取り除いて、自然科学の考え方や知識を身に付けることである。このことは、大学での多くの教養科目や専門科目での教育効果を高めることにつながるだろう。また、入籍が盛み出した科学知の方法とその成果を理解することは、現代社会で仕事を成し遂げ、よりよい人生を築くためにも役立つと考えられている。

この科目では、テイスカパリーチャンネルで放映された、「なぜに挑んだ科学の歴史100」を軸として、多様な自然科学の分野の概要を概説する。また、新聞記事をにぎわすような最近のトピックについても概説する。新聞記事紹介課題で、自然科学への興味や関心を向上させる。また毎授業後に基礎的知識を問うクイズを出したり、新聞記事を探したりまとめることにより、自然科学に興味や関心を持つ姿勢や基本的知識の定着を確認する。

**到達目標**

自然科学的なものの見方や考え方、自然科学と関連した現代社会の課題に関心と興味を持ち、これらを積極的に学び続けることができる。

自分自身の関心に応じて自然科学関連の新聞記事を探し出し、要約し、感想を述べることができる。

幅広い自然科学の分野についての初歩的で基礎的な知識を持つ。それらを自分の言葉で説明できる。

自然科学の時事的問題に関して、初歩的で基礎的な一般常識を持っており、それらを自分の言葉で説明できる。

**提出課題**

授業終了後、Respon等を用いて、基礎的な知識を確認したり、授業についての感想や意見や質問を書くレスポによるクイズを実施する。これには授業直後に回答する復習的な内容と、授業後に自分自身で調べて回答する自己学習の成果を示す内容が含まれている。

新聞記事紹介：学習項目に対応した新聞記事を探し、その要約を作成し、感想・意見を述べる。この課題を4回程度課す。

期末試験を実施する。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**

授業終了時小レポートならびに新聞記事課題について、次の授業時間等に講評・解説する。期末レポートについては、授業終了後にRyuka Portalで講評する。

**評価の基準**

平常点（授業終了時のレスポ等を用いて小レポートと授業終了後の自主学習の成果）30点、4回の新聞記事提出課題28点、期末試験42点の内訳で、合計100点とする。

授業終了時の小レポートを提出しない回数が1/3以上になった場合は、1/3以上の欠席と同等であるとして、単位を取得することができないので注意すること。

**履修にあたっての注意・助言他**

自然科学系の科目が苦手な学生にも、ぜひ受講してほしい。

教科書	.使用しない。			

**プリント資料及び参考文献**

資料をRyuka Portalで適時配布する。

**授業計画**

このシラバスは2021年2月に対面授業を前提に作成している。新型コロナウイルス感染症の状況によってはシラバスの修正の可能性がある。前期と同様に「対面のみ実施」「対面とオンデマンドの並行実施」の2タイプが実施される場合は、「対面とオンデマンドの並行実施」の科目として実行する予定である。

1. 物理学 - 1
2. 物理学 - 2
3. 化学 - 1
4. 化学 - 2
5. 天文学 - 1
6. 天文学 - 2
7. 地球科学
8. 生物学 - 1
9. 生物学 - 2
10. 遺伝学
11. 医学
12. 進化学 - 1
13. 進化学 - 2
14. 歴史科学
15. とのめ

定期試験を実施

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

1回の講義について、学期ならびに文部科学省の大学設置基準においては、4時間の自己学習が必要とされている。

予習は基本的には必要ないが授業前に10分程度前回授業をふり返っていた方が理解が容易になるかも知れない。授業中の配布資料に記入したり、またノートを作成するが、メモ・ノートの整理に授業終了後の復習として10分から20分程度は必要であろう。講義後自己学習に基づいて回答するレスポ課題は毎回30分程度が必要であろう。

4回ある新聞記事紹介レポートは最初は大変であろうが馴れば数時間で作成可能である。

期末試験の準備に半日から数日を費やすだろう。

この他に、基本的には動画、参考動画や参考資料を紹介するので、できるだけ視聴し、読んで欲しい。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

本学学生の共通のディプロマポリシーである、(3)創造力(新しい視点と豊かな発想)を持った人材として、「新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出すことができる」ためには、自然科学に対する理解や興味が発立つ面がある。新聞記事紹介課題は、本学学生が持つべき基礎能力である、「新聞が読め理解できる」能力と関連している。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

レスポ回答について、次の時間にフィードバックする。授業内容・方法に関する意見や質問についてもフィードバックする。

**実務経験の有無及び活用**

**備考**

このシラバスは2021年2月に対面授業を前提に作成している。新型コロナウイルス感染症の状況によってはシラバスの修正の可能性がある。前期と同様に「対面のみ実施」「対面とオンデマンドの並行実施」の2タイプが実施される場合は、「対面とオンデマンドの並行実施」の科目として実行する予定である。